

平成 23 年度 事業報告

1. 事業活動

(1) 公益事業（成蹊学園への後援）

① 成蹊学園の学生・生徒への奨学金の給付及び貸与事業

本年度より、新規貸与者の中で地方出身者に給付奨学金月 3 万円を支給することとした。また、大学生・大学院生の新規貸与枠を毎年 15 名で固定するとともに、中高校生枠を新設し、毎年 4 名の枠を設けることとした。本年度の新規の貸与者は大学生・大学院生 15 名、中高校生 3 名で、継続者も含め 37 名に奨学金を貸与した。貸与総額は 2,178 万円である。内訳は、中学生 3 名、高校生 3 名、大学生 29 名、大学院生 2 名である。新設の地方出身者への給付奨学金は該当事者 8 名に支給した。返済総額は 1,321 万円であり、本年度は 856 万円貸与額が増加した。

② 成蹊学園におけるクラブ活動等課外活動の助成事業

○スポーツ団体助成

本年度は、昨年度増額した予算に基づき、大学体育会は 9 団体に 100 万円を、昨年度新設した大学の特別強化指定団体制度は昨年指定したラグビーフットボール部、蹴球部、硬式庭球部に本年度も総額 200 万円を助成した。

スポーツ振興奨励金として、例年通り学内陸上競技大会と学内レガッタに合計 15 万円助成した。また、全国大会レベルの試合に出場した優秀団体 6 団体、優秀個人 4 名に合計 43 万円の奨励金を贈呈するとともに、例年通り体育会総会での表彰用の盾等を寄贈した。新しい取組として小中校の生徒を対象にスポーツ絵画コンテストを実施し、賞品・参加賞を贈呈した。

○文化団体助成

本年度も文化振興助成金として、大学の櫛祭、中・高校の蹊祭及び文化会本部に各 15 万円、新聞会に 5 万円を助成した。

○学術・教育助成

本年度より、先生の指導に基づく学生の活動に対する支援制度として、公募申込を行い、応募内容を学術・教育助成委員会が判断して助成対象を決めるチャレンジ助成金を新設し、3 件に 48 万円助成した。

チャレンジ助成金

	指導者氏名	活動内容
理工学部教授	小方 博之	自律型ロボットを製作し、「つくばチャレンジ」への出場
中学・高校教諭	伊藤 靖彦	成蹊高等学校演劇部「韓国青少年演劇祭」への参加
理工学部教授	小川 隆申	成蹊フォーミュラチーム 2012 年度大会上位進出へのチャレンジ

③ 成蹊学園への寄付

○学術・教育助成

従来からの学術・教育研究助成金は大学2件、中・高校4件、小学校4件に250万円助成した。具体的内容は下表のとおり。

学術・教育振興助成金として、小学校の教育誌「すもも」21号の発行費用の一部として40万円を助成した。

職名	氏名	専攻	研究種別	研究課題	助成額 (万円)
理工学部 教授	小川貴宏	応用言語学	個人研究	紙版の辞書およびCD-ROM版・ウェブ版・スタンドアロン(独立携帯型)の電子辞書のユーザーインターフェイスの比較研究	25
文学部 准教授	吉田幹生	日本古代文学	個人研究	日本古代恋愛文学史の研究	25
中学・高校 教諭	籠島聡子	外国語	個人研究	外国語授業におけるipad使用の有用性について	20
中学・高校 教諭	坂井史子	家庭	個人研究	消費者教育教材ビデオの制作	20
中学・高校 教諭	須藤昭義	数学	個人研究	関数表示ソフトfunction viewを用いた幾何の教材開発	20
中学・高校 教諭	宮本浩司	国語	個人研究	国語表現と演劇的方法	20
中学・高校 教諭	梅田礼敬	化学	個人研究	高校生向けテキストへの図表作成	20
中学・高校 教諭	三井 翔	外国語	個人研究	授業でのmacの効果的な活用法及びより効果的なハンドアウト制作	20
小学校 教諭	林 久博	小学全科	個人研究	児童のコミュニケーション能力を育てる特設カリキュラムの創造 ～劇的表現活動、ドラマの活動手法を用いて～	20
小学校 教諭	木下英樹	小学全科	個人研究	視聴覚機器を活かした学習活動の展開	20
小学校 教諭	関口 薫	図書	個人研究	子ども時代の読書がもたらす可能性について	20
小学校 教諭	小関大輔	小学全科	個人研究	「なぜか恥ずかしい」「なぜか緊張する」 ～英語力習得の前にある大きな心の壁～	20

○国際交流助成

本年度もセントポールズ校よりの留学生生活費等ホストファミリー負担額への一部支援として90万円を助成した。

○スポーツ活動助成

本年度は、昨年度増額した予算に基づき、中・高校に60万円、小学校に40万円を助成し、体育施設・クラブ活動備品等に充実に使用された。

2. 一般事業

①同窓会活動

(ア)成蹊桜祭の実施

毎年4月の第一日曜日に実施している成蹊桜祭は平成23年4月3日に予定していたが東日本大震災の影響に伴う措置により、開催を中止した。

＜平成24年は4月1日に実施、平成25年は4月7日に実施予定＞

(イ)学校・学部同窓会

4月27日(水)に、各学校・学部同窓会の会長・幹事長を招集して、連絡会を開催し、事業計画の要旨と一般社団法人移行に向けた「新定款案の骨子」について説明、意見交換を行い方針の理解を深めた。また、各同窓会の活動状況を踏まえ、活性化に向けての情報交換を行った。

(ウ)卒業周年同窓会の開催

成蹊会として実施を働きかけ支援している10年毎の周年同窓会は高校、大学ともすべて開催された。また、平成23年3月12日(土)開催予定で東日本大震災の影響で延期となった大学卒業10周年同窓会は、平成24年1月28日に開催した。

大学卒業10周年同窓会
平成13年卒(H24.1.28)
平成14年卒(H24.2.25)

高校卒業10周年同窓会(H23.12.10)

大学卒業20周年同窓会(H23.10.15) 高校卒業20周年同窓会(H23.6.25)

大学卒業30周年同窓会(H23.10.29) 高校卒業30周年同窓会(H23.10.9)

大学卒業40周年同窓会(H23.10.22) 高校卒業40周年同窓会(H23.12.3)

大学卒業50周年同窓会(H23.10.1) 高校卒業50周年同窓会

昭和36年卒(H23.11.26)

昭和37年卒(H24.3.24)

これらの同窓会全体で約1,600名の卒業生が参加した。

(注) 大学卒業10周年同窓会はホームカミングとして、成蹊学園が主催し同窓生を招待している。開催に向けては、同窓生と成蹊会で企画・運営を行っている。

(エ)地域同窓会の支援

本年度は、31ヶ所の地域成蹊会で総会等が開催され、そのうち30ヶ所に会長をはじめ役員が参加し、成蹊会・成蹊学園の現況について報告し、相互のコミュニケーションを深めた。

また、平成24年3月31日(土)に地域成蹊会代表者会議を開催した。海外を含め34の地域から54名が参加し、各地のノウハウの紹介・共有を図り、地域での同窓会活動の活性化に向けて討議した。

②会員サービス

(ア)情報発信

成蹊会誌113号、114号を発行し、会員に成蹊会の現況と同窓生の動向を伝えた。なお、114号からは表紙を全面写真にし、紙面を横書きにすることなどにより、イメージ・印象を一新した。

成蹊会の行事・会議については、ホームページでも告知を行い、会員に活動状況が伝わるように努めた。

(イ) 成蹊クラブ

平成23年2月に増床リニューアルを実施した成蹊倶楽部は、1年間の利用人数3,408人、売上高6,680千円と全体としてほぼ当初の目標を達成した。運営面ではコストの見直しを行い、年間損益は年初計画より改善することができた。

3. 法人部門

①第56回通常総会

平成23年6月11日(土)に成蹊大学14号館で、1,517名が出席(当日出席者154名、委任状提出者1,363名)して行われた。

平成22年度事業報告・決算報告、平成23年度事業計画・収支予算案、一般社団法人移行の件、成蹊学園100周年記念事業基金への寄附の件及び成蹊会評議員選任の件が付議され、いずれも原案通り承認された。

また、本年の総会は成蹊会創立75周年記念の総会であったので、総会終了後、高校卒業生で雅楽師の東儀秀樹氏の記念演奏会を行った。

②催事

(ア) 第51回謝恩顕彰

本年度の第51回成蹊会謝恩顕彰は、通常総会第3部として実施した。対象の方は5名で、うち2名の方の出席を賜った。

(注) 成蹊会謝恩顕彰は、成蹊学園の教職員として30年以上勤務、定年退職し、本年満70歳の特別会員が対象

(イ) 第89回枯林忌

学園創業者中村春二先生を偲ぶ第89回枯林忌は、成蹊学園と成蹊会の共催で、2月18日(毎年命日である2月21日の直前の土曜日)に春二先生のご遺族と90名余りの同窓生・教職員が参加して行われた。当日は、巣鴨の染井霊園で墓参した後、三菱養和会会議室で追悼会を行って、先生の遺徳を偲んだ。

<来年は2月16日(土)に実施予定>

③評議員会・理事会

評議員会は4回、理事会は10回、開催された。

④特別委員会

各特別委員会の開催回数は次の通りであった。

総務企画委員会	4回	広報委員会	6回
財務委員会	1回	成蹊桜祭委員会	7回
育英奨学委員会	6回	推薦委員会	4回
学術・教育助成委員会	4回	新法人格移行準備委員会	12回
成蹊クラブ委員会	7回	桜祭プロジェクト	5回
スポーツ振興委員会	6回		

⑤公益法人制度改革への取り組み

平成23年6月11日の第56回通常総会で一般社団法人への移行が承認され、その後、新法人格移行準備委員会で、新定款・各規程案を検討し、2~4月に開催した理事会・評議員会で審議・承認された。

新定款案及び公益目的出計画案については、第57回通常総会に議案として提案し、

承認を受ける予定である。

⑥会費納入促進

例年通り、総会案内に会費納入用紙を同封して、会費納入をお願いした。

その後、地域同窓会での会費納入要請、および各同窓会の年次委員および周年同窓会出席者のうち未納者に、年末には例年通り、昨年納入者で本年度未納の方、及び平成16年度以降の会費未納者に依頼状を送付するなど督促に努めた結果、会費納入者数は9,690名と平成22年度より61人増加し、なんとか4年連続で納入者を増やすことができた。

⑦在校生からの10年分会費代理徴収における帳票の扱い変更への対応

成蹊学園より、コンプライアンス上、問題があるとの見解が示され学園と協議を続けてきた入会金と10年分会費の代理徴収時の帳票の分離については、払込用紙を学費と成蹊会費の用紙とを分けるが、納入者の手間の問題もあるので、両者を合算した払込用紙も用意することで合意した。徴収時期については、大学、高校とも入学3年目の学費払込時とすることとし、平成24年4月の学費払込から再開することとなった。

なお、今回の学園システムの変更に合わせて、成蹊会から未納者督促用データの抽出・提供を依頼したことから、そのためのシステム開発費の成蹊会負担が発生し、平成24年度予算に165万円計上した。

⑧東日本大震災への義援金

平成23年3月11日に起きた東日本大震災の被災地の皆さまの復興に少しでも役立つよう、平成23年3月29日の理事会で義援金100万円を拠出することを決め、平成23年4月5日に日本赤十字社を通じて寄付した。(平成23年度予備費で対応)

⑨事務局の強化

成蹊学園からの出向者が5月末で復帰することに伴い、5月に事務局員1名を採用した。また、増大する一般社団法人移行関連業務と多様化する同窓生のニーズに対応すべく、8月より1名増員した。

4. 成蹊学園との連携

①成蹊学園理事会・評議員会への出席

成蹊学園の理事会・評議員会に出席し、成蹊会推薦の役員が学園発展のため、積極的に意見交換・意見提起を行った。

②成蹊学園創立100周年事業への協力

平成23年6月11日の第56回通常総会の決議に基づき、平成24年3月30日の成蹊学園評議員会の場において、成蹊学園創立100周年記念事業募金への寄附1億円を、谷会長より佃理事長へ贈呈した。

2012年5月12日(土)東京国際フォーラムにおいて実施される成蹊学園創立100周年記念式典を盛り上げるため、2月16日の枯林忌、4月1日の成蹊桜祭は創立100周年記念ホームカミングとして、卒業生への浸透をはかるべく努めた。

③成蹊会学術賞の贈呈

本年度は、成蹊会学術賞の実施年であり、選定された2組と1名の先生方を第56回通常総会において表彰し、賞状と副賞の賞金20万円を贈呈した。

分野	氏名	研究内容
言語学	小林めぐみ経済学部准教授他4名	多読で読む英語力プラスα
文学	下河辺美知子文学部教授他4名	アメリカ・テロル-内なる敵と恐怖の連鎖-
政治	高安健将法学部教授	首相の権力：日英比較からみる政権党とのダイナミズム

④学園行事への参加

- (ア) 各学校の卒業式、入学式には会長をはじめ成蹊会推薦の理事が参列し、大学の学位授与式と入学式においては、会長が祝辞を述べるとともに、成蹊会の活動について紹介した。
- (イ) 成蹊学園が年4回行う地域清掃活動には事務局中心で参加・協力した。
- (ウ) 成蹊音楽祭(12月18日)、建学の日行事(3月23日)には、同窓生に呼びかけ、多くの参加を得て、行事を盛り上げるべく努めた。
- (エ) 成蹊大学が行う地域懇談会(高崎、広島)の開催にあたっては、成蹊大学の要請に応じて、役員の派遣および当該地域成蹊会と連携して同窓生の参加を行うなど開催に協力した。

以 上